さやま
金剛コミュニティ

狭山ニュータウン・金剛・金剛東・
狭山市駅前・千代田などに40,000部

7月22日（1137号）

2010年（平成22年）毎月第1・2・4木曜日発行
発行所・有限会社 コミュニティ　1部50円
〒590-0105　堺市南区竹城台3丁22番2号
http://www.community2525.com/

実験用に誰の唾液を採取するかでワイワイ。

実験や実習行い 理科嫌いを克服

「教科の中で理科が苦手」「理科は嫌い」。子供達の間で、いわゆる「理科離れ」が進んでいるのをご存じ？そんな中、理科の実験を多く行う塾として注目されているのが、大野台5丁目の小・中学生個別指導ジーニアス教育総合研究所072・367・6665。

ゆとり教育導入後、小中学校の理科の授業時間、中でも実験・実習は大幅にカットされ、先生が一人で行い、子供達は見るだけということも少なくない。でも、これでは興味を持てないし、理解度も低い。同塾代表の島田裕典先生いわく「理科は実際自分で実験して、答を導き出すことが大切」

中山典子先生担当、中学2年の授業をのぞいてみた。この日の実験は「唾液の働きを調べよう」。子供達は実験に慣れていて手際が良く、試験管を扱うのもお手の物。唾液に含まれる酵素が、でんぷんを分解することを目で確認し、しっかり理解できた。自分達のペースで納得しながら実験を進められる上、塾で予習的に行うことも多く、学校ではよりわかりやすいと言う。

このような取り組みが個性的だと、4月にはテレビのニュース番組でも取り上げられた。また実験の他にも、小学校低学年の子供達は昆虫の体の作りを理解するため、紙粘土でやチョウやトンボを作ったり、敷地内の菜園でツルインゲンなどを育てたり。「興味を持つと子供達の表情が変わってきます。収穫した野菜を家で料理することで、家族のコミュニケーションもアップ」と島田先生。〔黒田〕